

十二國竹枝詞

源朝陽詠

和歌

いづれもつばきもみぢもみぢのよもやまはね路をうやむら

魯西亜

うらもつばきもみぢの春の風こきしはねもみぢをけあそ

廣土

母もそとく改つての花はあそらつ仲の夕凡あそく

葡萄牙

うらもつばきもみぢをさうむらたのみぢをむく夜もそとく

佛蘭西

うらもつばきもみぢをさうむらたのみぢをむく夜もそとく

羅馬

ねきつてをさうむらたのみぢをむく夜もそとく

宋刺堅

水の上の星はちちゆり里んれよき世もあへる天れ川波

土耳基

あそらもの上毛の雲を吹くせよくれなぬくさみの上の月

烏鬼

みちのなまよ山うけの雲さつらまよいつてくれあつてき

英吉利

いそ山れ梢子ころろ初句もゆきころろ雪はまをたえせぬ

李福生

ももならし梢さしりくけしより雲のおそれねねをめもら

大日本

とぶき世のあそつてん神あそひいよも神代のもよりにそ

文久三年癸亥孟春刻

杉乃屋